

令和2年度 事務事業総点検シート(1)  
[ 令和元年度事務事業 ]

一般会計					事務事業分類	A 一般事務事業
事務事業名	堺市展開催事業				シート番号	008-033
担当部署名	文化観光	局	文化	部	文化	課 評価責任者(課長名)
						辻尾

Ⅰ. 基本情報

基本情報	1	堺市マスタープランの政策体系に基づく事業の位置付け	政策	2	誰もが幸せで、暮らしの質の高いまちを実現します	後期実施計画の位置付け
			施策	2	文化芸術活動の振興	無
	2	事業開始年度	昭和 22 年度		終了(予定)年度	— 年度
	3	根拠法令等(法令、条例、規則、要綱等)	文化芸術基本法、自由都市堺文化芸術まちづくり条例			
	4	関連計画	自由都市堺文化芸術推進計画			
5	事業実施の経緯	戦後の文化復興をめざして、昭和22年に第1回堺市展が開催され、令和2年度に74回目を迎える。				

Ⅱ. 事業概要

事業概要	6	事業の実施主体(誰が実施しているのか。)	<input checked="" type="checkbox"/> 本庁 <input type="checkbox"/> 各区 <input type="checkbox"/> 出先機関 ( ) <input checked="" type="checkbox"/> 市外郭団体 <input type="checkbox"/> 地域団体・市民 <input type="checkbox"/> 民間企業・NPO <input type="checkbox"/> その他 ( )			
	7	事業の対象(誰を、何を対象としているのか)	市民を中心に美術創作活動に携わる者及び美術鑑賞愛好家			
	8	事業の目的(どのような状況にしたいのか)	広く美術作品を公募し、将来の文化芸術を担う人材の育成や美術文化の一層の発展を図る。 また、優れた美術作品の展示を通して市民に芸術鑑賞の機会を提供し、文化振興に寄与する。			
	9	事業内容(スケジュール、実施方法・手段、事業ボリュームなど)	堺市と公益財団法人堺市文化振興財団の共催で、日本画、洋画・版画、彫刻・立体造形、工芸、写真、書道・てん刻の6部門の美術作品を公募し、文化館ギャラリーで入賞・入選・招待作品の美術展覧会を開催する。 また、若手作家の発表の機会を提供するため、前回の芸術新人賞受賞作家による展覧会「NEW FACE ART 堺」を翌年夏に開催。 <input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助金 <input checked="" type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> その他 ( )			
10	直接実施以外の主な支出先	公益財団法人堺市文化振興財団				

Ⅲ. 投入量

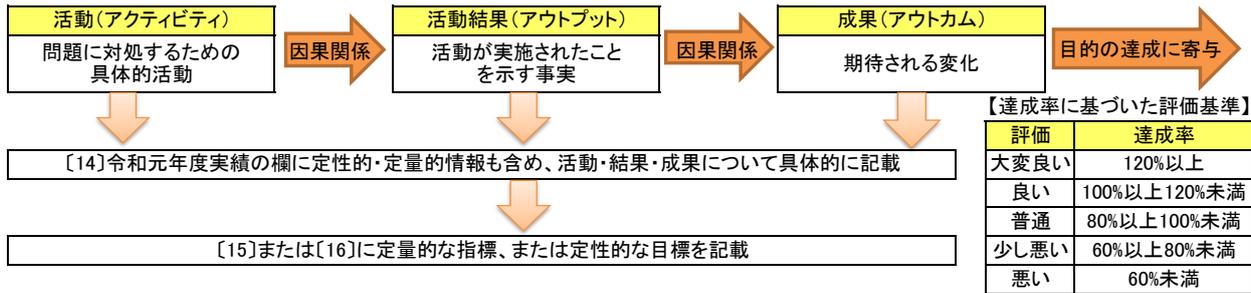
項目	単位	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算	予算	
11 事業費 (a)	千円	6,437	6,213	6,516	6,123	6,214	6,003	5,701	
主な事業費内訳	負担金	千円	6,437	6,213	6,516	6,123	6,214	6,003	5,701
		千円							
		千円							
		千円							
財源内訳	国・府支出金	千円							
	受益者負担金(使用料、手数料等)	千円							
	市債	千円							
	その他( )	千円							
一般財源	千円	6,437	6,213	6,516	6,123	6,214	6,003	5,701	
12 人件費 (b)	千円	1,640	1,640	1,640	1,640	1,620	1,620	1,640	
13 総コスト(c)=(a)+(b)	千円	8,077	7,853	8,156	7,763	7,834	7,623	7,341	

## 令和2年度 事務事業総点検シート(2)

事務事業名	堺市展開催事業	シート番号	008-033
-------	---------	-------	---------

### Ⅳ. 評価(測定・分析)》

#### ロジックモデルの考え方



[14] 令和元年度実績の欄に定性的・定量的情報も含め、活動・結果・成果について具体的に記載

[15]または[16]に定量的な指標、または定性的な目標を記載

#### 事業の活動実績や成果

令和元年度実績								
活動実績と成果	14	<p>応募点数も一定の水準を維持しており、広く美術作品を公募できる事業として継続できた。また、応募者の中には、受賞を重ね最高位の賞を受賞するなど、本展を目標として制作されており、将来の文化芸術を担う人材の育成や美術文化の発展に寄与することができた。</p> <p>【令和元年度 第73回堺市展出展者状況】過去3年間出展がない者を新規出展者とする                      日本画:44名(うち、新規出展者18名)、洋画・版画:209名(うち、新規出展者53名)、彫刻・立体造形:23名(うち、新規出展者13名)、                      工芸:34名(うち、新規出展者15名)、写真:188名(うち、新規出展者44名)、書道・てん刻:67名(うち、新規出展者25名)                      合計:565点(うち、新規出展者168名)</p>						
	15	指標名【活動指標】	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
		全体応募点数に占める40歳未満(若手作家)の応募点数割合	%	目標値	10	10	10	25
				実績値	6	7	10	
				達成率	60%	70%	100%	
	評価			少し悪い	少し悪い	良い		
	算出方法・設定根拠など		全6部門の新規出展者数の合計。					
	16	指標名【成果指標】	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
		観覧者数	人	目標値	4,200	4,200	4,200	3,000
				実績値	5,055	4,138	3,278	
				達成率	120%	99%	78%	
	評価			大変良い	普通	少し悪い		
	算出方法・設定根拠など		全3期の開催期間中の観覧者の合計、R2年度はコロナ対策のため入場制限をかけるため前年度を下回る。					

#### 事業の効率性

		区 分	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度
17	①	40歳未満の出品者	人	35	37	56
	②	上記①にかかる年間経費	千円	471	543	762
	③	単位当たり経費(②÷①×1,000円)	円/単位	13,457	14,676	13,607
	備考(算出についての説明等)					
		区 分	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度
18	①	観覧者数	人	5,055	4,138	3,278
	②	上記①にかかる年間経費	千円	7,853	7,763	7,623
	③	単位当たり経費(②÷①×1,000円)	円/単位	1,554	1,876	2,326
	備考(算出についての説明等)					

#### 業績の分析

19	目標を達成できた、または達成できなかった要因や効率性についての分析 (その他、関連情報に基づいた分析)
<p>応募点数については、平成29年度から500点後半と一定の水準で推移している。応募者全体に占める新規出展者の割合については、出品者数の少ない彫刻や工芸が比較的多く、洋画や写真といった出品者が多い部門が比較的小さい状況で、全体としては30%近くを推移している状況である。</p> <p>来場者数の減少については、平成30年度は堺市展の会期と堺 アルフォンス・ミュシャ館の休館期間が重なっていたためと考える。</p> <p>令和2年度の応募点数や観覧者数の目標が昨年度より低くなっているのは、新型コロナウイルス感染症対策として3密にならないよう、応募の際に事前振込や事前予約にしたり、会期中は入場制限をかける予定であり、減少が見込まれるため。</p>	

#### 【分析のチェックポイント】

- 事業の達成度はどうだったか。
- 5W2Hを踏まえて、実施過程に問題はありましたか。
- 資源投入は適切でしたか。
- 事前想定できない外的要因の影響はありましたか。
- 有効性は高いですか。低いですか。
- 効率性は向上していますか。
- RPA等をはじめとするICTを活用する余地はありましたか。
- ターゲットに応じた最適媒体の選定など、戦略的な広報ができていましたか。

令和2年度 事務事業総点検シート(3)

事務事業名	堺市展開催事業	シート番号	008-033
-------	---------	-------	---------

《V. 点検》

＜点検の前提＞

- 新型コロナウイルス感染症の影響により、本市の財政運営は今後一層厳しくなる
- 新型コロナウイルス感染症拡大防止と社会経済活動の両立をめざす

○上記「点検の前提」を踏まえ、事業の抜本的な見直しを検討するもの。 ⇒  確認

コロナ禍を踏まえた点検（必要性・有効性・効率性）	20	本市財政運営が厳しくなることが想定される中、当該事業を廃止できないか。	事業廃止の可能性 <input checked="" type="checkbox"/> 廃止できる <input type="checkbox"/> 廃止できない	廃止した場合に市民生活等に及ぼす具体的な影響 将来の文化芸術を担う人材の育成や、市民に芸術鑑賞する機会を提供することができなくなる。
	21	(20で廃止できるを選択しなかった場合) 本市財政運営が厳しくなることが想定される中、当該事業を休止(延期)できないか。	事業休止の可能性 <input type="checkbox"/> 休止(延期)できる <input type="checkbox"/> 休止(延期)できない	休止した場合に市民生活等に及ぼす具体的な影響 休止の場合の再開時期 <input type="checkbox"/> 令和2年度中 <input type="checkbox"/> 令和3年度 <input type="checkbox"/> 令和4年度以降
	22	(20で廃止できるを選択しなかった場合) 本市財政運営が厳しくなることが想定される中、事業規模を縮小するなど、コスト縮減を図ることができないか。	コストの縮減 <input type="checkbox"/> 一部廃止しコスト縮減できる <input type="checkbox"/> 一部休止しコスト縮減できる <input type="checkbox"/> 規模等を縮小しコスト縮減できる <input type="checkbox"/> 事業手法等を改善しコスト縮減できる <input type="checkbox"/> 縮減できない	縮減できる場合は具体的な縮減内容、できない場合はその理由
	23	(20で廃止できるを選択しなかった場合) 社会経済活動の維持・回復のほか、3密を避けるなどの市民や民間の活動変容への対応に向け、実施手法を改善する必要がないか。	事業手法の適切性 <input type="checkbox"/> 改善する必要がある <input type="checkbox"/> 改善する必要がない <input type="checkbox"/> 既に対応できている	改善する場合は改善策、その他は理由
	24	(20で廃止できるを選択しなかった場合) 効果的・効率的な事業の実施に向け、右に掲げる視点から改善できないか。	効果的・効率的な事業実施(以下の観点で、改善する(または改善済)場合は <input checked="" type="checkbox"/> 、改善しない(改善余地がない場合を含む)場合は <input type="checkbox"/> ) ① <input type="checkbox"/> 公民連携の推進 ② <input type="checkbox"/> ICT活用による効率化 ③ <input type="checkbox"/> 他部局との適切な連携・役割分担 関係部署名 (                      ) 関連事業名 (                      ) ④ <input type="checkbox"/> 国・府等との適切な役割分担・連携 ⑤ <input type="checkbox"/> 他政令市等との比較におけるサービス水準の均衡 ⑥ <input type="checkbox"/> その他 (                      )	理由・説明
25	これまでの点検を踏まえ、今後の事業のあり方についてどのように考えるか。	事業の方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止または延期 <input type="checkbox"/> 事業を縮小 <input type="checkbox"/> 改善して継続 <input type="checkbox"/> 現状を継続 <input type="checkbox"/> 事業を拡充 公金投入の方向性 <input checked="" type="checkbox"/> ゼロ <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 拡大	実施年度 <input type="checkbox"/> 令和2年度 <input checked="" type="checkbox"/> 令和3年度 <input type="checkbox"/> 令和4年度以降	
			所見 令和2年度においては新型コロナウイルス感染症対策を万全にした中で実施することに努める。今後「文化芸術創造のまち堺」の伝統ある公募展として、より多くの市民に鑑賞してもらえるよう認知度の向上に努めるとともに、事業の改善も行い、若手作家の出品割合を増やすような時代のニーズに対応した公募展となるよう取り組む。 なお、来年度に文化芸術推進事業を創設し、当該事業をそちらに統合した上で、効率的な運営を図っていく。	